



イラスト：永田信行

環境省 自然環境局

生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan



表紙のイラスト

日本各地の生物多様性を1枚の絵巻にして表現した「つながりんぐ」から一部を抜粋しました。全体は展示室にてご覧いただくことができます。北海道から沖縄まで、300種以上の動植物が描かれており、日本の列島の生きものたちのつながりが表現されています。



生物多様性センターからのお知らせ

●「生物多様性まつり2015」開催のお知らせ ところで多様性ってなに？ ～いまさら聞けない多様性～

「生物多様性まつり」は生命のつながりについて学んでもらうことを目的として、生物多様性センターが毎年夏に開催しているイベントです。今年のテーマは「ところで多様性ってなに？ ～いまさら聞けない多様性～」です。最近耳にする機会も増えてきた“生物多様性”という言葉について、いまさら聞けないみなさんの「？」に企画展示やクラフト、自然体験プログラムなどをとおして紹介します！



昨年のクラフト体験の様子

■日 時：平成27年8月2日(日)／9時～17時

■場 所：環境省生物多様性センター(富士スバルライン沿い料金所手前)

■対 象：どなたでも ■参加費：無料

■内 容：生物多様性クイズラリー、企画展示「日本の北と南、比べてみました!」、自然体験プログラム：ボクもワタシも「名探偵」～自然の中の“不自然”を探せ!～(野外)、標本収蔵庫ツアー(予)、クラフト体験：葉脈標本(予)、さく葉標本(予)、押し花コースター、間伐材うちわ、イリオモテヤマネコ特別講座、イリオモテヤマネコ特別展((予)印は予約制プログラムです。当日の9時及び13時から受付をおこないます。)
※お問合せは裏表紙と<http://www.biodic.go.jp/event/2015/matsuri.pdf>をご覧ください。

イリオモテヤマネコ発見50周年特別展(7月18日(土)～9月30日(水))開催中
詳細は裏表紙と<http://www.biodic.go.jp/event/2015/iriomotensis.pdf>をご覧ください。

●自然体験プログラム休日開催のお知らせ

生物多様性センターでは、日本の自然環境や生物多様性の現状、保全に向けた取組みを広く知っていただくために展示室などの一般公開をおこなっております。特に4月下旬から11月末までの期間は土曜、日曜、国民の祝日及び国民の休日についても一般公開を実施していますが、今年は6月から11月の間毎月1回普及啓発プログラムを開催しています！

今後の日程と内容については以下の通りです。

日 程： 8月 2日(日)「ボクもワタシも「名探偵」
～自然の中の“不自然”を探せ!～」
： 9月27日(日)「台所から始めるキノコ観察入門」
：10月18日(日)「紅葉いろどる樹海のヒミツ散策ツアー」
：11月 8日(日)「自然素材を活かしたネイチャークラフト」

対 象：どなたでも(小学生以下の場合、保護者の同伴が必要です)

※動きやすい服装(長袖・長ズボン・運動靴)でお越しください。

※定員になり次第、予約を締め切らせていただきます。

なお、定員に空きがある場合は、当日の参加も可能です。

※天候によっては内容に変更がある場合もございます。あらかじめご了承ください。



6月27日におこなわれたプログラムの様子

いずれの回も生物多様性や自然環境、生きものなどについて、楽しく遊びながら学べる内容となっております。休日も是非生物多様性センターにお越しください！

お申込方法：①氏名 ②年齢(学年) ③性別 ④住所 ⑤電話番号 ⑥参加希望のプログラムと時間を裏表紙に記載してあります連絡先にお問合せください。

●足環のついた野鳥をみかけたら ～鳥類標識調査のご紹介～

足にリング(足環)が付いた野鳥をみかけたことはありませんか?野鳥に個体識別用の数字が刻まれた金属製の足環を付けて生態などを調べる調査を「鳥類標識調査(バンディング)」といいます。海外でも広くおこなわれている調査手法で、日本では、1924年(大正13年)に開始されました。

足環の装着は鳥類標識調査員(バンダー)によっておこなわれ、現在では、毎年約13~15万羽の野鳥に新たな足環を装着し放鳥しています。再捕獲調査や観察によって足環の番号を読み取り、その情報を収集、解析することで、その個体が何年生きているか、どこに移動したかがわかります。例えば、日本で繁殖したツバメの確認情報が東南アジアの国々からあり、ツバメの越冬地が判明するなどの成果が得られています。

足環付きの野鳥をみかけたら是非情報をお寄せください。銀色の足環は、数字が読めないと残念ながら個体を特定できないのですが、もし数字が判明しましたら、山階鳥類研究所(業務委託先)にご連絡ください。色つきの足環は色のみでの情報でも個体を特定できるケースもあります(写真のクロツラヘラサギは、左足の2色の足環の色または右足の足環の数字で個体識別ができます。右足の数字入りの足環の色は装着した国を示し、黄色は日本での装着個体です)。



クロツラヘラサギ (山階鳥類研究所提供)

鳥類標識調査(リンクから山階鳥類研究所のサイトへいけます。)

<http://www.biodic.go.jp/banding/>

[参考] 鳥類アトラスWeb-GIS(鳥類標識調査で得られた情報をもとにした野鳥の渡りの記録をご覧ください。)

<http://www.biodic.go.jp/birdRinging/top.html>

●全国鳥類繁殖分布調査が始まります!

日本に自然分布している野鳥は約600種です。世界の鳥類は9,000種程度といわれていますので、なんと約7%の種が日本で確認されています。日本の国土面積は世界の面積の0.28%ですが、小さな国土に多様な野鳥が生息しています。

野鳥は種によって、さまざまな環境で暮らしています。限られた地域にしかない種もあれば、全国に広く分布している種もあります。現在の日本では、どこにどんな野鳥が暮らしているのでしょうか。

環境省では1970年代と1990年代の過去2回、全国の愛鳥家の協力を得て鳥類繁殖分布調査をおこない、全国の鳥類分布とその変化を調べました(自然環境保全基礎調査の一環)。前回調査から10年以上が経ち、野鳥をとりまく自然環境に変化が起っています。野鳥の現状としても、減った種、増えた種のほか、外来種の確認や分布拡大など多様な変化が生じています。

そこで、現在の日本全国の野鳥の分布を調べるために、NGOや研究者などと生物多様性センターの共同事業として、全国鳥類繁殖分布調査を実施することになりました(2016年度~2020年度に調査実施予定)。調査や結果とりまとめなどにボランティアでご協力いただける方を募集中です。全国の野鳥の動向を調べるといって広範囲な調査ですので、多くの方のご協力が必要です。身近な野鳥と一緒に調べてみませんか?是非ご参加ください!



鳥類繁殖分布調査の予定コース(赤色表示箇所)

詳細情報、参加者募集情報 <http://www.bird-atlas.jp/>

前回調査報告書 http://www.biodic.go.jp/reports2/6th/6_bird/

●モニタリングサイト1000 第2期とりまとめ完了！

モニタリングサイト1000は、全国のさまざまな生態系を対象に約1000ヵ所の調査サイトを設け、長期的に(100年間)モニタリングする取組みで、平成15年から順次開始されました。現在も研究者や市民調査員にご協力いただきながら、モニタリングを続けています。

この取組みでは5年を1期とし、各期ごとに中間的なとりまとめをおこなっています。昨年度で第2期までの10年間のとりまとめを完了しました。継続的なモニタリングの結果、気候変動や東日本大震災に起因すると考えられるものも含めて各地における生態系の変化が明らかになってきました。

とりまとめ結果の報告書はウェブサイトで見ることができますので是非ご覧ください。

<http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html>

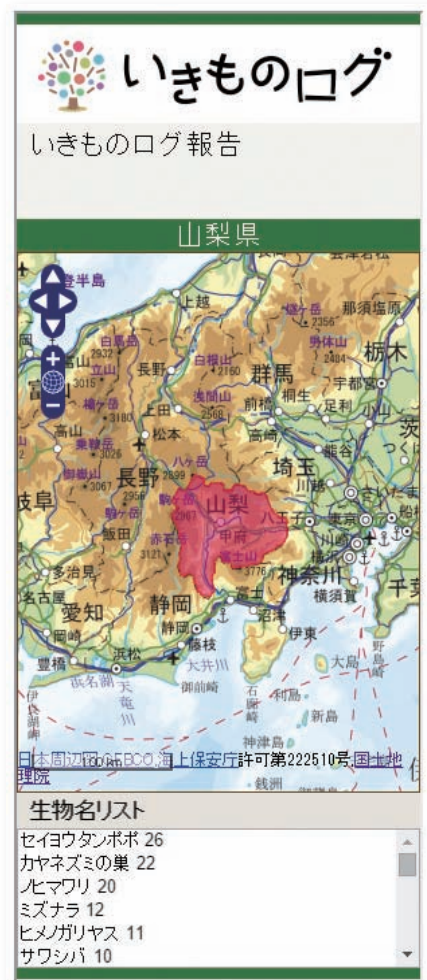
●「いきものログ」を活用しませんか？ ～API公開でさらに利用しやすくなりました！～

インターネット上で生物多様性情報を収集・共有するウェブサイト「いきものログ」を公開しています。「いきものログ」は、環境省をはじめとする国の機関、地方公共団体、専門家、市民など、さまざまな皆様が生きものの目撃情報を登録し、活用することができます。集められた情報は、生物名を指定して検索できるほか、分布図やグラフとして表示することができ、データのダウンロードも可能です。

「いきものログ」への生きものの目撃情報の登録は、インターネットに接続可能なパソコンからだけでなく、「いきものログ」専用アプリを利用することで、スマートフォンやタブレット端末からも簡単におこなうことが可能です。是非身近な地域や旅行先で見つけた生きものの情報を「いきものログ」に投稿してください。

この度、皆様により「いきものログ」を活用していただくため、いきものログウィジェット及びAPI(β)の公開を開始しました。いきものログウィジェットは、調査カテゴリ、調査名、都道府県名を設定した専用のコードを「いきものログ」の分布図を表示させたい外部サイト(例えば、調査団体やご自身のウェブサイトなど)にHTML形式で記載することで、外部サイト上に分布図を表示するサービスです。さらに、API(β)を活用して専用のコードを外部サイトの設計時にプログラミングすれば、「いきものログ」の検索機能と報告機能を外部サイト上で利用することが可能です。APIの活用によって、地域で活動する調査団体などが身近な地域の生物多様性情報を収集、提供するのにも役立つことが期待されます。詳細については「いきものログ」ウェブサイトほか、運営事務局までお問合せください。

より便利になった「いきものログ」を利用して身近な環境に息づく生きものに目を向けてみませんか。「いきものログ」は多くの方々の参加により、「生きもの地図」を描いていくシステムですので、皆様の積極的な活用をお願いします。



いきものログ

<http://ikilog.biodic.go.jp/>



「いきものログウィジェット」の画面イメージ
みなさんが管理するウェブサイトなどにHTML形式で記載することで、設定した条件の「生きもの地図」を表示させることができます。

●ライブカメラを新設しました

生物多様性センターのウェブサイト「インターネット自然研究所」では、日本の美しい風景や野生生物の姿を伝えるため、全国の国立公園や野生生物の生息地にライブカメラを設置し、撮影された画像をインターネットを通じて配信しています。

この度、「細岡展望台からみた釧路湿原」、「吉野山上千本から望む吉野桜と町並み」、「京都御苑（九條家の遺構・拾翠亭）」の計3箇所のライブカメラを増設しました。平成27年6月現在、全国69箇所のライブカメラ画像が閲覧できるようになっています。

ライブカメラ画像は日中1時間ごとに記録されるため、全国各地の今現在の様子を確認することができます。また、過去10数年の画像がデータベースとして保存されているので、遡って画像を閲覧することもできます。

さらに設置カメラには、生き物がみられる、火山がみられる、紅葉の様子がみられるなど、さまざまな特色がありますので、目的に合った自然の姿や風景をご覧ください。

<http://www.sizenken.biodic.go.jp/>



細岡展望台からみた釧路湿原
(平成27年5月20日)



吉野山上千本から望む吉野桜と町並み
(平成27年4月9日)



京都御苑（九條家の遺構・拾翠亭）
(平成27年6月2日)

●「2015新宿御苑みどりフェスタ」に出展しました

毎年4月29日に開催される「新宿御苑みどりフェスタ」に今年も出展し、生物多様性に関するパネルや標本の展示などをおこない、生きものつながりについて紹介しました。

パネルの展示では、生物多様性センターの業務や私たち人間と野生生物との間で起こっている問題について、いくつか事例を挙げながら紹介し、今後生きものたちと上手につきあっていくために私たちができることを一緒に考えていただきました。

また、標本展示ではニホンジカ、イノシシ、ツキノワグマ、ニホンザル、ホンダギツネなど日本の代表的な野生動物に触れる標本10種と毛皮標本を展示し、種類ごとに異なる毛並みや特徴について実際に見て、触れて感じていただきました。

さらに、生物多様性センター敷地内の森に設置したセンサーカメラで撮影された写真を集めた写真集の展示もおこない、水場を訪れた鳥たちや、水を飲むツキノワグマの様子などをご覧ください。

生物多様性センターでは、今後もさまざまなイベントに参加し、「生物多様性」について皆様に理解を深めていただけるようこれからも普及啓発活動を続けていきます。来春も出展予定ですので、是非ご来苑ください。

(右記のような標本は、センター常設展示でもご覧になれます。)



みどりフェスタ2015の様子

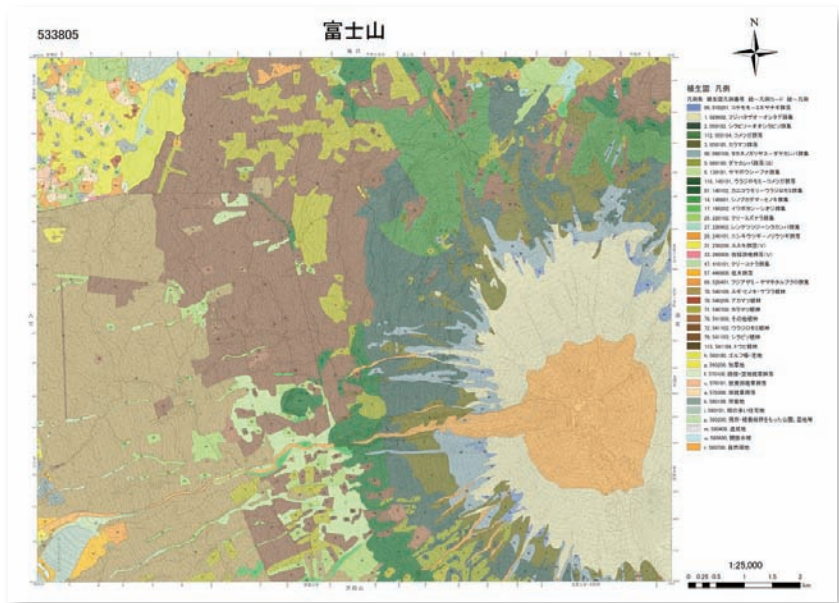
●全国の植生図「2万5千分の1」を作成しています

昭和48年以降、自然環境保全基礎調査の一環として植生調査を継続的に実施してきました。これまでに5万分の1植生図の全国整備を完了し、平成11年度からは、2万5千分の1植生図の整備に着手しています。

植生図とは、植物のまとまりを植物群落として区分し、それらの面的な配分状況を地図化したものです。自然環境の基礎的情報としてだけでなく、環境アセスメントなど各種の環境計画立案の基礎情報としても極めて重要な資料となっており、早期の全国整備が求められています。

平成26年度には、国土の約4%分の整備が完了した結果、全国面積の約72%の植生図が整備されました。未整備地域には、積雪地など調査期間が限定される地域や急峻な山岳地域など、整備に困難が伴う地域が多く含まれますが、整備方法を工夫するなどして早期の全国整備を目指しています。

なお、整備済みの植生図は以下のウェブサイトで閲覧、ダウンロードすることができます。



植生調査情報提供ページ
<http://www.vegetation.biodic.go.jp/>

1/25,000植生図「富士山」

●JICA生物多様性保全のためのGIS・リモートセンシングを利用した情報システム及び住民参加型保全コースの紹介

生物多様性センターでは、世界の生物多様性の保全に貢献するためさまざまな国際協力をおこなっており、その一環として国際協力機構(JICA)研修などを通じて、海外から多くの研修員を受け入れています。

その中の一つ、JICA「生物多様性保全のためのGIS・リモートセンシングを利用した情報システム及び住民参加型保全」コースは、生物多様性センターが関係機関と協力して開催するJICA研修です。ここでは生物多様性保全と保全地域の管理に必要な技術の習得や仕組みを理解し、それぞれの国の課題解決に向けて取組む能力を養うことを目標としています。前身のJICA研修「生物多様性情報システム研修」(1998-2013)では、これまで延べ53カ国、160名が参加しており、今年の研修員たちも生物多様性センターで実施している自然環境保全基礎調査やモニタリングサイト1000、所蔵している標本の見学、環境情報の提供システムなどについて熱心に学んでいました。

この研修以外にも毎年多くの研修を受け入れています。詳しくは以下のウェブサイトをご覧ください。



平成27年度の講義の様子
 JICA「地域復興に寄与する持続可能な湿地資源の利用法」研修

http://www.biodic.go.jp/JICA_Homepage/index-j.html

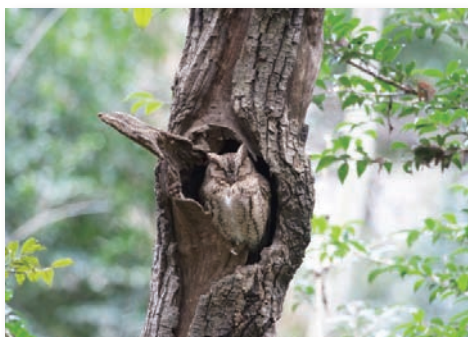
生物多様性センターに収蔵している標本の紹介 第25回

和名 / オオコノハズク
RDBカテゴリー / なし
学名 / *Otus lempiji*
分類 / フクロウ目 フクロウ科



オオコノハズク本剥製
当センター所蔵

●擬態の名人



(写真提供) バードウォッチャー 中居 稔

オオコノハズクは、留鳥または漂鳥としてほぼ全国に生息しています。平地から山地の森林、社寺林などに生息しており、日中は樹木の葉の茂みの中や樹洞の中などでじっと休息していますが、夕暮れから活動を始め、主にネズミなどの小型哺乳類や鳥類、ときにはカエルやヤモリ、昆虫類を採食します。大きさはハトより一回り小さく、頭は大きく丸みがあり脚の指には羽毛が生えていて、眼は橙色をしています。耳のように見える羽を「羽角」といい、擬態や警戒をしている時に羽角を立てるため、正面から見ると顔がネコのように見えるのも特徴です。体の模様は保護色となっていて、樹木にじっと留まっていると木のコブのように見えるので、姿を見つけるのは難しいかもしれません。

●森から聞こえるネコの鳴き声！？

主に春から夏の繁殖期の夜になると、オスはメスを呼ぶために「ポォーウポォーウ…」と竹筒を吹くような低い声でゆっくり鳴きます。また、「クゥー」や「クウィー」という鳴き声で、なわばりの防衛やオスとメスの間で鳴き交わすことでコミュニケーションをとったりしています。

メスの鳴き声は「ミュウ」や「ミャウ」とネコのように鳴き、オスも地鳴きの際に同様に鳴くことがあります。みなさんが森を歩いているときにネコだと思っていた鳴き声は、もしかしたらオオコノハズクだったかもしれません。

●ズックちゃんとの関係



生物多様性センターのマスコットキャラクター「ズックちゃん」は、オオコノハズクをモチーフにしています。多くの人に環境保全の大切さを広く伝えたいという思いと、小型のフクロウで可愛らしく親しみを持っていただきたいという思いを託しています。今後もズックちゃんと共に皆様に生物多様性への理解を深めてもらうため、環境と生きものつながり、環境保全の重要性をご案内していきます。



(写真提供) 稲葉 啓吾(井の頭自然文化園にて)

参考文献：

- 樋口広芳・百瀬 浩. 1980. 日本にすむオオコノハズクの鳴き声について. 鳥, 29 :91-94
- 蒲谷鶴彦・松田道生. 1997. 日本野鳥大鑑 鳴き声333上. 小学館. P177
- 真木広造・大西敏一・五百澤日丸. 2014. 決定版日本の野鳥650. 平凡社. P420
- 叶内拓也・阿部直哉・上田秀雄. 2014. 新版日本の野鳥. 山と溪谷社. P395

施設紹介

イリオモテヤマネコ発見 50周年特別展 開催のお知らせ

■期間：7月18日(土)～9月30日(水)

■参加費：無料

イリオモテヤマネコについて発見の歴史から、どんな生態なのか、保護の取組みなどをパネルでご紹介します。

普段は公開されていない西表島に生息する野生生物のはく製もご覧になれます。

特別講座(生物多様性まつりと同時開催)

現場で活躍しているヤマネコ先生がやってきます!

講演：西表野生生物保護センター
日名耕司

8月2日(日) 第1回：10:00～11:00

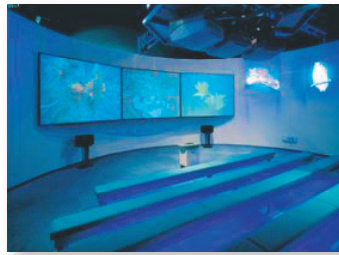
第2回：12:00～13:00

第3回：14:00～15:00



展示室 つながいろうむ

生物多様性の保全を進めるためには、一人でも多くの人がその大切さを理解し、自らできることから取組みを始めることが大切です。そのためのきっかけづくりの一つとして、生物多様性の意味やその大切さをテーマとした展示室を設けています。



エントランスホール

日本の希少な野生生物を含め、多くの生物標本を収集、保存しています。その一部をエントランスホールにおいて展示していますので、是非ご覧ください。



図書資料閲覧室

生物多様性センターでは、生物多様性に関する図書や各種文献などを収集・保管しています。これらの図書や文献資料は、図書資料閲覧室で閲覧することができます。



利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 冬季期間(12月～4月)の土日祝日
年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 無料
- 団体でご利用される場合は
事前にご連絡をお願いします。
- 図書資料の貸し出しは
行っておりません。

交通案内

- 富士急行河口湖駅または中央高速バス河口湖駅下車、タクシーで約15分
- 中央自動車道河口湖ICまたは東富士五湖道路富士吉田ICより車で約15分



環境省 自然環境局

生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1

ウェブサイトURL <http://www.biodic.go.jp/>

TEL 0555-72-6031 FAX 0555-72-6032



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。